

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	106	実施計画番号	26
事務事業名	稲生塾		
個別事業名	寺子屋「稲生塾」	事業開始年度	平成22年度
担当課名	スポーツ・生涯学習課	事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等		関連事務事業	
背景や経緯等	市長公約の事業であり、子どもを取り巻く環境が大きく変化しているなか、三本木原開拓や稲造の功績等の郷土学習によってふるさとに対する認識を高める必要がある。さらに地域の人々とのふれあいをとおして、世界のために行動する人材を育成する必要がある。		
事務事業の目的	新渡戸稲造博士の「武士道」等の学びや体験をとおして、子どもたちに道徳心・規範意識や郷土愛を育み、次代を担う人づくりを目指す。		
実施状況	小学校4年生から6年生を対象に、子ども武士道ワークショップ、まちの魅力発見、世界とともだちなど7回のプログラムを新渡戸記念館と連携して実施している。		

【人件費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	28	28	28
	人件費(千円)	1,008	1,008	1,008
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)	0	0	0

【事業費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
事業費合計(千円)		333	399	467
うち一般財源		333	399	467
うち国県支出金				
うち地方債				
うちその他				

【指標】

活動指標	活動指標名①	寺子屋「稲生塾」開催回数				
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	
		日	7	7	7	
	活動指標名②					
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	
成果指標	成果指標名①	寺子屋「稲生塾」参加者数				
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	
		人	目標値	200	200	200
			実績値	203	272	
			達成度(%)	102%	136%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

整理No	106
計画No	26

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 子どもたちの育成を地域社会とともに取り組むことは地域の活性化が図られ十分に妥当性があると考ええる。	
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	稲生塾について各小学校に出向き、講座の参加について説明し、参加募集に努めている。 他の市町村にも声がけながら、参加者を募集している。	
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1			
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 地域の方や市民ボランティア等の方々の協力により事業を展開しており、事業費削減の余地はないと考える。	
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 塾生は市内小学生を対象して募集、材料費の負担だけであり、公平性は保たれていると考える。	
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
現在の適性					19 / 20	改善の余地	1 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択)

⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由
市長公約で実施した事業で今年度は4年目となり、子どもたちが「武士道」を通して、道徳心、国際性、規範意識、郷土について考えるきっかけになればと考えている。このような事業は継続性が必要であり、予算の範囲内で現状のまま継続したい。
今後の具体的な取組み方策と狙う効果
稲生塾は参加できる児童が40人と限られることから、多くの学校で稲生塾と同等の内容で出前講座を実施していきたい。